

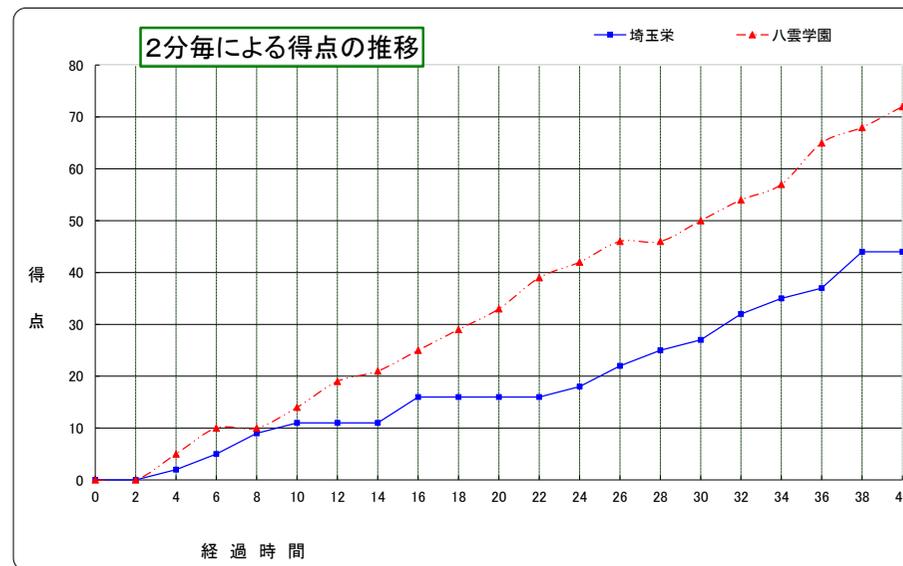
平成28年度第27回関東高等学校 バスケットボール新人大会

平成29年2月12日(日)
春日部ウイングハット
準決勝

チームA 埼玉栄 (埼玉)	44	{	<table border="0"> <tr><td>11</td><td>1st</td><td>14</td></tr> <tr><td>5</td><td>2nd</td><td>19</td></tr> <tr><td>11</td><td>3rd</td><td>17</td></tr> <tr><td>17</td><td>4th</td><td>22</td></tr> </table>	11	1st	14	5	2nd	19	11	3rd	17	17	4th	22	72	}	チームB 八雲学園 (東京)
11	1st	14																
5	2nd	19																
11	3rd	17																
17	4th	22																

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー	
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	大和 千夏	6	0	4	3	10	0	0	1	3	3	1	1	1	2	
5	神山 夢来	12	1	5	4	10	1	1	2	2	5	1	2	0	8	
6	平井 佑奈	0	0	4	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3	
7	石川 愛	14	1	2	4	15	3	7	4	3	10	2	0	1	8	
8	田中夢希乃	0														
9	伊藤 澄華	0														
10	大岩 真桜	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	
11	矢部 鈴奈	12	2	7	3	5	0	0	2	0	3	1	0	0	3	
12	原 奈生子	0														
13	市原 知華	0														
14	山下 弥桜	0														
15	高橋 理佐	0														
16	加賀谷すみれ	0														
17	渡邊はるる	0														
18	五十嵐美玲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
コーチ	一ノ瀬 和之															
		44	4	23	14	41	4	8	9	12	34	6	4	2	26	
		確率	17.4%		34.1%		50.0%			計	46					

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー	
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	佐藤 陽香	15	1	2	5	8	2	2	2	0	3	2	1	0	5	
5	奥山 理々嘉	19	1	3	5	18	6	6	4	7	9	3	1	1	3	
6	奥野 聖	13	3	9	2	6	0	0	0	1	1	1	6	0	1	
7	小村 日夏理	20	3	8	5	9	1	1	0	3	6	0	3	1	6	
8	太田 咲里	5	1	4	1	5	0	0	4	1	2	1	0	0	1	
9	奥脇 彩袖子	0	0	2	0	1	0	0	0	0	2	3	2	0	0	
10	太田 清香	0														
11	日塔 愛美	0														
12	宮下 菜侑	0														
13	尾川 菜	0														
14	佐々木 穂奈	0														
15	中島 瞳	0														
16	山中 小梅	0														
17	蒲 ひより	0														
18		0														
コーチ	高木 優子															
		72	9	28	18	47	9	9	10	15	32	10	13	2	16	
		確率	32.1%		38.3%		100.0%			計	47					



戦評

市立船橋との激戦を制し、地元の期待を背負って準決勝に進出した埼玉栄と、安定感のある戦いぶり
で順当に勝ち上がった東京代表八雲学園との一戦。

第1P 試合序盤、八雲学園は速い展開から積極的にアウトサイドシュートを狙うがシュートが決まら
ない。一方の埼玉栄も#7を上手く活かすことが出来ず、重たい出だしになる。こう着状態から先に抜
け出したのは八雲学園。#6の3p、#7のオフェンスリバウンドからのバスケットカウントなどで徐々に
リードを奪う。しかし、埼玉栄もインサイドに対するディフェンスを強めリズムを取り戻し、エースの#7の
得点でぐらい付く。八雲学園は#5のファウルが気になる。14-11で八雲学園の3点リードで第
1P終了。

第2P お互いにボールがインサイドに入らずタフショットが多くなる。その中でシュートの決定力の差
が表れ、八雲学園#6の3pなどで八雲学園10点リードになったところで埼玉栄1回目のタイムアウト。
タイムアウト後、埼玉栄は#5がオフェンスリバウンドを頑張り、#7のポストプレイなどで追いかける。
八雲学園は6点差に迫られた残り4分にタイムアウトをとる。その後、相手のミスに乗じたファストブレイ
クなどで流れを取り戻す。13点差をつけられたところで今度は埼玉栄2回目のタイムアウト。しかし、そ
の後もオフェンスでのつまらないミスが連続し、結局17点のビハインドを背負って前半を終了する。

第3P 開始2分で#5#7の3本の3pでリードを広げる八雲学園。中のスペースが狭く効果的にイン
サイドを使えない埼玉栄は強引なドライブインが目立ち、ハーフコートオフェンスが停滞する。対する八
雲学園はパスランなどで全員が良く動き、ボールの動きが活発になる。作り出したチャンスを正確な
ジャンプシュートで得点に繋げる八雲学園は完全に主導権を握り、50-27と大量リードを奪い第3Pを
終える。

第4P #5を起点にクレバーなオフェンスを展開する八雲学園に対し、埼玉栄はディフェンスを頑張り
#11の3p、#5のリバウンドシュートなどで点差を縮めようとする。しかし、ターンオーバーの数は修正
されず、流れをつかむには至らない。その後も八雲学園は#7をはじめとした高確率な3pを武器に加
点し続ける。試合終盤、埼玉栄も#5の3pや#11のジャンプシュートなどで追いつけるが、結局八雲
学園が72-44で快勝し、決勝戦にコマを進めた。埼玉栄も奮戦したが、ミスの数とシュートの確実性
の差が勝負を分けた試合であった。

記入者: 飯野 英利

Ref	伊橋 隆浩	1st U	大澤 尚樹	2nd U	川満 有紀
-----	-------	-------	-------	-------	-------